安全管理プロジェクト活動報告

徳永 誠 笠原美久 加藤美佐 黒土優太 小山哲夫 佐藤亜矢子 田中協子 中島綾子
降矢久美子 結川達也 川原藤樹[*1] 川田良暁[*2] 小林邦宏[*2] 沼本啓良[*3]

物質・生命科学系 [*1]電気電子情報系 [*2]機械建設系 [*3]事務担当

1. はじめに

本プロジェクトは、埼玉大学の教育・研究現場の安全管理活動を支援することを目的としている。以下に 2023 年度の活動について報告する。

2. 今年度の活動報告

・薬品管理システムの管理・運用支援

本学で購入した毒劇物薬品の薬品管理システム(IASO)への一括登録に対する支援、IASO に登録されている基本データ(薬品データベースやユーザーに関するデータなど)の管理、薬品の使用や廃棄の際の IASO 利用法に関する問い合わせへの対応など、従来から支援している事案について、今年度も活動を継続した。

自律的化学物質管理に向け、昨年度、IASO 導入後初の棚卸を実施し、今年度、不要試薬の一括廃棄を行った。本プロジェクトでは、およそ 4300 本の廃棄試薬の整理、回収を支援した。また、本年度からIASOを利用した高圧ガス容器の管理を開始し、ユーザーが適切に高圧ガス容器を管理できるようサポートした。



廃棄試薬回収の様子

・安全管理についての情報提供・意見交換

本プロジェクトでは、教育研究機関化学物質管理ネットワーク(ACSES)より配信されている「ACSESニュースレター」の記事から周知すべき事項を抜粋し編集した、「化学物質の安全管理かわら版」を学内向けに発行している。2023年度はトピックスとして、「大学の自律的化学物質管理ガイドラインの公示」、「厚生労働省による濃度基準告示及び技術上の指針の制定」「皮膚等障害化学物質等の新たな指定」などを取り上げた。

また、昨年に引き続き、「第 11 回北関東地区技術系職員安全管理ワークショップ」を本学主催でオンライン開催した。今回はテーマとして「新たな化学物質管理に対する取り組みの現状」を取り上げ、4 件の発表がなされた。総合ディスカッションでは、各参加機関の化学物質管理の現状や今後の対応について活発な議論が交わされた。

・その他の活動

今年度も応用化学科からの依頼を受け、学生実験の安全教育を担当した。また、理工研安全衛生委員会にも継続して参加している。

3. 今後の展開

今年度からの大規模な法改正により、大学にも自律的な化学物質の管理が求められるようになった。高度な教育・研究成果を期待され、企業とは異なる環境の大学の作業場では、現場に即した管理の工夫が必要である。そのために、外部の研究会への参加や他機関からの情報収集などを積極的に行い、適切な情報を学内に提供できるよう努めたい。そして、教員・学生を技術面で支援する技術職員として、その経験や知識を生かし、今後も埼玉大学の安全管理に貢献していきたい。